

令和7年度 学生の学修に関する実態調査

ご回答いただいたみなさまへ ― 結果報告書

あなたの学びを振り返るために

本調査には **643 名** のみなさんにご回答いただきました。ご協力に心より御礼申し上げます。

この調査は、本学の教育をよりよくするためだけでなく、みなさん自身が「この4年間（あるいはこれまで）でどんな力を身につけ、これから何を伸ばしたいか」を振り返る手がかりにさせていただくことも目的としています。ここでは、寄せられた回答の全体像を報告します。

1. みなさんの学びの全体像

88.8% 授業に満足 満足＋ある程度満足	85.4% 学びを通じた 成長を実感 そう思う＋ある程度	91.6% 教え方の工夫を 実感した授業 よくあった＋ある程度	80.1% 教職員が学生と 向き合っている そう思う＋ある程度
---	--	---	---

多くのみなさんが、日々の授業や大学での学びを通じて着実に成長を実感していることが伝わってきました。

前年度（令和6年度）と比べて

▶ **高い満足度・成長実感が続いています。** 授業満足度 90.6% → 88.8%、成長実感 85.3% → 85.4% と、いずれも前年度と同じ高い水準を保っています。

▶ **「これから伸ばしたい力」は少し前進しました。** 外国語を使う力 34.8% → 37.3%、数理・統計・データサイエンス 38.8% → 40.1% と、わずかながら高まっています。

※本調査は毎年度、その年に在学する学生に実施しています。前年度との比較は、同じ学生の変化ではなく、年度ごとの傾向を示すものです。

2. 在学中に身についた力

幅広い知識・ものの見方	88.3%
専門分野の知識・理解	86.8%
文献・資料を収集・分析する力	82.4%
論理的に文章を書く力	82.0%
問題を見つけ解決する力	80.9%
多様な人々と協働する力	77.9%

学年が上がるほど、実感は高まっています。

ディプロマ・ポリシーに関わる力の「身についた」という実感は、学年進行とともに着実に高まっていました。

DP 到達感（平均） 1年 72.3% → 4年 77.2%

「身についた」と明確に答えた割合 1年 21.5% → 4年 36.4%

積み重ねてきた学びは、確かに力になっています。卒業までに、あるいは次の学年で、その実感をさらに確かなものにしていきましょう。

3. これから伸ばしたい力

「身についた」という実感が相対的に弱かったのは、次の力でした。

外国語を使う力 37.3% **数理・統計・データサイエンス 40.1%**

英語で学ぶ授業や語学科目、データサイエンス関連科目、留学・海外研修、インターンシップなどは、経験した人の多くが「有用だった」と答えています（インターンシップの有用度 89.2%）。学内の語学サポートやキャリア・留学関連の窓口も、ぜひ活用してみてください。関心のある分野に一步踏み出すことが、次の力につながります。

4. みなさんの声は、しっかり受け止めています

自由記述には 116 件のご意見が寄せられました。とくに多かったテーマは、関係部署・委員会と共有し、今後の検討の参考とします。

履修登録・抽選のしくみについて：「学びたい科目を選びやすくしてほしい」という声を多くいただきました。履修機会のあり方は重要な検討課題として受け止めています。

課題や試験のフィードバックについて：「講評や評価の観点を知りたい」という声を踏まえ、学びを次に生かせるフィードバックを行うよう、先生方に働きかけます。

意見を伝える場について：授業評価アンケートのあり方をはじめ、みなさんが声を届けやすいしくみづくりを検討します。学修環境（自習スペース・通信環境等）へのご要望も共有しました。

5. 学びを振り返るヒント

この機会に、自分自身に問いかけてみませんか。

- この1年（またはこれまで）で、いちばん成長を感じた学びは何でしたか。
- 身についた力を、次の学年や卒業後にどう活かそうですか。
- 「もっと伸ばしたい」と思う力のために、来学期に始められる一歩は何でしょうか。

調査の活用について：いただいた回答はすべて統計的に処理し、個人が特定されることは一切ありません。本調査の結果は、文部科学省が実施する「全国学生調査」の基礎データとしても、統計的な形式で提供する予定です。教育の改善に向けて大切に活用してまいります。ご協力ありがとうございました。